

課題研究

教 科	工業	単位数	3	学科・学年	建築インテリア工学科 3年
使用教科書					
副教材等	ワークシート、専門科目の教科書、担当教員が配布するプリント				

「課題研究」の到達目標は

- (1) 建築インテリア分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。
- (2) 工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。
- (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	建築インテリア分野で学んだ内容を生産活動と関連付けて体系的・系統的に理解しているとともに、相互に関連付けられた技術を身に付け活用できている。	社会における工業の意義や役割に着目して、工業に関する課題を見だし、単に生産性や効率だけを優先するのではなく、取り巻く状況を判断した上で、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき工業製品が社会に与える影響を踏まえて創造的に解決する力を身に付けている。	建築インテリア分野の専門的な知識、技術などの深化・総合化を図り、課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展を担うために主体的かつ生産活動を担うために協働的に取り組む態度が身に付いている。
評価の方法	- 成果物（作品や報告書など） - 授業態度（安全作業、製作技術など）	- 成果物（作品や報告書など） - 発表内容（思考・判断した過程や結果を適切に説明できる。）	- 成果物（作品や報告書など） - 出席状況 - 授業態度（取組状況など）

2. 評価の規準（及び年間の評定）

2. 評価の規準（及び評価の決定）			
単元	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作、製品開発	建築インテリア分野について体系的・系統的に理解しているとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
調査、研究、実験			
産業現場等における実習			
職業資格の習得			
1 年間の評定は、年間を通じて総合的に判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学 期	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価の観点		
				知・技	思・判・表	主
1 学期～3 学期	4 月～2 月	●作品制作、製品開発	* これまでに習得した知識、技術などを活用し、さらに新しい知識と技術を学びながら作品や製品を完成させる。	○	○	○
		●調査、研究、実験	* 環境保全と技術、産業や工業の発展と生活との関わり方、工業の各分野に関わる技術の発達、歴史的技術や建築物・土木構造物などの成立過程、技術的内容などの調査・研究やそれに基づいた作品や模型の製作などをする。また、工業製品を設計するときの構造、形状、大きさや強度実験、素材として使用されている材料の特性を調べる実験、製造工程における反応条件を調べる実験なども行う。	○	○	○
		●産業現場等における実習	* 産業現場等における実習を通して、勤労の厳しさや尊さ、ものを作り上げるための苦労や感動、責任の重さ、安全への配慮、改善点の発見に努める姿勢などを体得させるとともに、工業に関する各学科に関連する知識と技術を総合的、発展的に習得させる。	○	○	○
		●職業資格の習得	* 工業科に属する科目で学んだ内容に関連した職業資格や各種検定試験について、自らが取得を希望する職業資格を取得する意義、職業との関係、職業資格を制度化している目的などを探究するとともに、その一環として職業資格に関連する専門的な知識、技術などについて深化・総合化を図る学習活動、職業資格を必要とする職業に関連するものづくりに関する課題の解決策を考案する学習活動を行う。	○	○	○
		～ 主な流れ ～ ○ ガイダンス ① テーマ決定 ② 調 査 ③ 分析・総合 ④ 計 画 ⑤ 設 計 ⑥ 製 作 ⑦ 実 施 ⑧ ま と め ⑨ 発 表	・テーマ別にグループ（個人）を編成し、課題を決定する。 ・課題の目的を明確にし、課題に対するデータ収集等をする。 ・調査結果を整理し、目的に適合する仕様を総合的に決定する。 ・研究をスムーズに進めるため、作業計画・役割分担をする。 ・設計製図する。 ・作品製作する。 ・中間発表することで、作品・仕様・設計・計画を評価し、問題点を見つけ、問題を解決する改善案を考え、再検討して実行する。 ・研究をまとめ、発表準備をする。 ・研究内容を発表（プレゼンテーション）する。また、展示発表する。			

実習（インテリア類型）

教 科	工業	単位数	3	学科・学年	建築インテリア工学科 3年
使用教科書					
副教材等	担当教員が配付する資料・試作見本等				

「実習」の到達目標は

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	工業技術の建築インテリア分野に関する知識と技術を身につけ、工業の発展と環境・資源などとの調和のとれたものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技能を身につけている。	工業技術に関する諸問題の適切な解決をめざして、広い視野から自ら思考し、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現し伝える能力を身につけている。	工業技術について主体的に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともに、社会の発展に役立つ技術開発を積極的に学ぶ態度を身につけている。
評価の方法	- 年間3回の定期考査 - レポートにおける記述 - 授業中の発言 - 作品の仕上がり	- 年間3回の定期考査 - レポートにおける記述 - 授業中の発言	- 授業中の発言 - レポートにおける記述 - 授業中の行動

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめり(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家具の製作	・身近な家具の寸法、デザイン、機能等情報の収集を調査し、製作物の設計・製図、木取り、トリミング加工、部品加工、仮組み、組立、塗装、金具の取付、最終本組立までの知識や技術を身につけている。 ・手加工に必要な道具工具や機械加工に必要な基本的な安全知識、使用方法を理解した木工加工の実践的な知識・技術を身につけている。	・身近な家具の寸法、デザイン、機能等情報の収集を調査し、製作物の設計・製図、木取り、トリミング加工、部品加工、仮組み、組立、塗装、金具の取付、最終本組立までの実践的な力を身につけている。 ・手加工に必要な道具工具や機械加工に必要な基本的な安全知識、使用方法を理解した木工加工の実践的な力を身につけている。	・身近な家具の寸法、デザイン、機能等情報の収集を調査し、製作物の設計・製図、木取り、トリミング加工、部品加工、仮組み、組立、塗装、金具の取付、最終本組立まで意欲的に取り組む態度を身につけている。 ・手加工に必要な道具工具や機械加工に必要な基本的な安全知識、使用方法を理解した木工加工を意欲的に取り組む態度を身につけている。
プロダクトデザイン （遊具・玩具の製作）	・遊具や玩具の製作を通してプロダクトデザインについて正しく理解して、ものづくりの基礎基本をデザイン設計から加工製作、組立、塗装までの過程を経験して一連の設計製作の作業取り組むことで、より実践的な知識や技能を身につけている	・遊具や玩具の製作を通してプロダクトデザインについて正しく理解し、ものづくりの基礎基本をデザイン設計から加工製作、組立、塗装までの過程を経験して一連の設計製作の作業取り組むことで、より実践的な力を身につけている。	・遊具や玩具の製作を通してプロダクトデザインについて正しく理解して、ものづくりの基礎基本をデザイン設計から加工製作、組立、塗装までの過程を経験して一連の設計製作の作業取り組むことで、より意欲的に取り組む態度を身につけている。
1 年間の評定は、4つの講座を、知識・技能（技術）を重視し総合的に判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学 期	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価の観点			考 査 範 囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学 期 ～ 3 学 期	4 月 ～ 2 月	家具の製作 ・デザイン検討 ・製作物製図 ・木取、加工、組立 ・塗装、研磨	・家具の製作を通じて、製作テーマに基づいた各種家具のデザイン、設計、製図を通して家具製作に関わる一連の作業工程と専門的、実践的な家具製作に必要な知識や加工技術を習得する。	○	○	○	一学期期末考査・二学期期末考査・学年末考査で各パートの考査を行う
		プロダクトデザイン （遊具・玩具の製作） 製作物のデザイン検討 ・玩具のデザイン設計 ・玩具の製作 ・木取、加工、組立 ・塗装、研磨	・遊具や玩具の一連の設計製作を通してプロダクトデザインについて正しく理解して、ものづくりのデザイン設計から加工製作、組立、塗装までの過程を取り組むことで、より実践的な知識や技能を身につけ専門的な知識や加工技術を習得する。	○	○	○	
		2パート編成で、2講座をローテーションする					

製図（インテリア類型）

教 科	工業	単位数	3	学科・学年	建築インテリア工学科 3年
使用教科書	インテリア製図（文部科学省）				
副教材等	教員が準備するプリント				

「製図」の到達目標は

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野の製図に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （１）建築インテリア分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- （２）製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- （３）建築インテリア分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	建築設計製図に関する学習や作図・課題演習を通して、建築設計製図に関する基本的な概念や総合的な把握の仕方を理解し、各種建築工事における設計図書の意義や役割、作図手順などの知識・技能を身につけている。	各種建築工事に使用される設計図書作成に関する諸問題を、総合的な見地からの確に把握し考察を深め、建築設計製図における基礎的・基本的な知識を活用して適切に思考・判断し、創意工夫した製図法での確に表現する力を身につけている。	各種建築工事に使用される設計図書を作成することに興味・関心をもち、建築設計製図の意義や役割の理解および諸問題の解決を目指して、主体的に学習に取り組むとともに、建築技術者としての望ましい心構えや態度を身につけている。
評価の方法	- 授業態度 - 線の使い分け - 課題提出	- 作品の表現 - 線の表現 - 作品の取り組み状況等	- 授業準備 - 授業態度 - 課題の提出状況

2. 評価の規準（及び年間の評定）

単元	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第6章 内部空間の製図	・住宅設計製図の具体的な流れの理解に意欲的に取り組み、実践的な技能を身につけている。	・住宅図面の描き方の手順に常に思考・判断し、正しい線の使い方によりきれいに描きあげることに、実践的な行動力を身につけている。	・建築製図技術の向上に向けて努力することができる。提出期限を守ることができる。
1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、知識・技能（技術）を重視し総合的に判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価の観点		
				知・技	思・判・表	主
1 学期	4	第1節 建物や室内空間の設計プロセス 第2節 2階建て住宅の設計製図 第1 建築物の平面図（課題1）	・ 建築製図の概要について学習する。 ・ 尺貫法など建築製図の基礎的知識を学習する。 ・ 平面図の描き方を学習する。	●	●	●
	5					
	6					
	7					
2 学期	8	第2節 木造2階建て設計製図 平面詳細図（課題2） 第2節 木造2階建て設計製図 断面図・立面図（課題3） 第2節 木造2階建て設計製図 かなばかり図（課題4）	・ 平面詳細図の描き方を学習する。 ・ 断面図・立面図の描き方を学習する。 ・ かなばかり図の描き方を学習する。（CAD実習）	●	●	●
	9					
	10					
	11					
	12					
3 学期	1	自己設計 「将来の木造住宅」（課題5） 発表会（評価会）	・ 木造2階建て住宅を課題とする自己設計を行う。 「将来の木造住宅」（課題4） ・ クラス内で発表会をして、他の人の作品を評価するとともに、自己評価の参考とする。	●	●	●
	2					
	3					

建築法規

教 科	工業（建築インテリア）	単位数	2	学科・学年	建築インテリア工学科・3年
使用教科書	建築法規（実教出版）				
副教材等	自作プリント				

「建築法規」の到達目標は

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の計画、設計、施工及び管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 建築関係法規について法的な側面から建築物の安全性や快適性を踏まえて理解するようにする。
- (2) 法的な側面から建築物に関する課題を発見し、技術者として法的な根拠に基づき解決する力を養う。
- (3) 安全で安心な建築物を計画、設計、施工及び管理する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	建築法規を包括的に学習し、建築生産に役立つ実践的な知識を身につけ、建築法規に関する知識を建築物の設計や施工にかかわる業務に活用できる。	建築法規の役割について思考を深め、種々の事例に対して知識・技能を生かして適切に判断し、建築の計画・設計・施工などの学習において的確に表現できる。	建築物や都市生活の安全性、良好な都市環境を保つ観点などから、建築法規の必要性や諸問題などについて幅広く関心をもち、主体的に学習に取り組んでいる。
評価の方法	- 定期考査（年5回実施）（知識・理解を問う設問） - 長期休業中における課題と宿題テスト - 小テスト - 確認プリント - ワークシート - 授業ノート - 設問に対し、適切な公式を用いて解答が導き出せる。 - 資料から情報を収集・選択して問題が処理できる。 - 成果物（提出された課題の内容、実験結果等）	- 思考・判断した過程や結果を適切に説明（表現・発言）できる。 - 確認プリントやワークシート、授業ノートの記述内容 - 定期考査、小テスト、宿題テスト（思考・判断・表現を問う） - 成果物（授業ノート、授業プリント、レポート内容）	- 出席状況 - 授業準備（必要な持ち物、事前課題提出等） - 授業態度（身だしなみ、言葉遣い、挙手、取組状況等） - 成果物（レポート提出、課題提出、授業ノート、授業プリント等） - 生徒自己評価 - 生徒相互評価

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめり(単元)	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 建築法規のあらまし 第1節 建築法規の起源 第2節 建築法規の意義 第3節 法規の体系と建築基準法の構成 第4節 建築基準法の基本用語	- 今日の建築基準法に至る建築法規の歴史的変遷と社会的背景を学習し、建築法規の重要性を理解している。 - 一般的な工業製品とは異なる建築物の特性から、建築基準法の必要性や効果を理解している。 - 一般的な法規の体系と建築基準法に基づく法規の体系との関係、建築基準法の構成や条文の構成を理解している。 - 建築基準法の基本的な用語の定義や面積・高さ・階数などの算定方法を理解し、実例に適用することができる。	- 社会の変化に応じた建築法規の役割やあり方について思考し、事例に応じて法規の必要性を判断することができる。 - 建築物の特性から生じるルール（規定）の必要性と効果などについて思考し、建築基準法の具体的規定との結びつきを説明することができる。 - 建築基準法と同施行令、同施行規則の関係とそれぞれの役割について説明することができる。 - 用語の定義や面積・高さ・階数等の算定方法の重要性や背景について思考し、事例に応じた適用を判断することができる。	- 今日の建築基準法に至る建築法規の歴史的変遷に関心をもち、その背景の理解に意欲的に取り組んでいる。 「個人の自由な意志の尊重」と「公共の福祉の増進」の観点から、建築基準法の必要性や効果などに関心をもち、実践的な学習に役立てようとしている。 - 法規の体系と建築基準法の構成に関心をもち、建築法規全般の学習に役立てようとしている。 - 建築基準法における基本的な用語と面積・高さ・階数などの算定基準に関心をもち、建築法規のほか建築計画や設計の学習に役立てようとしている。
第2章 個々の建築物にかかわる規定 第1節 一般構造・建築設備についての規定 第2節 構造強度についての規定 第3節 防火と避難についての規定	- 居室の採光と換気、天井と床の高さ、階段などの規制に関する算定能力を身につけ、建築の計画や設計に活用することができる。 - 換気設備・尿尿浄化槽・昇降機・避雷設備などの役割や設置基準について理解し、設計に活用することができる。 - 建築物の構造や規模に基づく構造計画や計算方法と各構造種別ごとの法規制について理解し、事例に応じた設計に活用することができる。 - 建築基準法と消防法にかかわる防火と避難に関する規定をその背景を含めて理解し、安全対策を建築	- 居室の採光と換気、天井と床の高さ、階段などに関する規定と建築の計画や設計とのかわりについて思考し、建築の計画や設計に的確に表現できる。 - 換気設備・尿尿浄化槽・昇降機・避雷設備の必要性や居住者の安全性などについて思考し、設置基準や構造基準を建築の計画や設計に的確に表現できる。 - 建築物の構造や規模と構造計画や計算方法のかわりなどについて思考し、事例に応じて構造基準の適用を判断することができる。 - 防火・避難・消防活動の各規定の背景について説明することができる。	- 居室の採光と換気、天井と床の高さ、階段などに関する規定の背景や諸問題に関心をもち、建築の計画や設計の学習に役立てようとしている。 - 換気設備・尿尿浄化槽・昇降機・避雷設備の役割や設置基準などの建築設備の分野に幅広く関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。 - 構造計画・設計のプロセスと構造計算の必要性や方法などについて関心をもち、建築の計画や設計の学習に役立てようとしている。 - 建築基準法と消防法の防火と避難に関する規定の背景や諸問題に関心をもち、建築の計画や設計の学習に役立てようとしている。

	の計画や設計に活用 することができる。		
第3章 良好な都市環境をつくるための規定 第1節 都市計画法と建築基準法 第2節 土地利用 第3節 道路と敷地 第4節 密度に関する規定 第5節 形態に関する規定 第6節 良好なまちづくり	・都市計画法に基づく建築基準法の集団規定のしくみと意義を理解している。 ・都市計画で指定される区域、地域地区における用途規制・構造規制について理解し、事例に応じた設計に活用することができる。 ・都市計画区域内における道路と敷地にかかわる規制について理解し、建築の計画や設計に的確に活用することができる。 ・用途地域と連動する密度規定の成り立ちと効果を理解し、建蔽率や容積率の計算能力を身につけ、建築の計画や設計に的確に活用することができる。 ・用途地域と連動する各種高さ制限や日影規制などの形態規定の成り立ちと効果を理解し、実際の事例に応じた算定能力を身につけ、建築の計画や設計に活用することができる。 ・地区計画・建築協定・総合設計・特定街区などの制度のしくみや効果を理解している。	・都市計画法に基づく建築基準法の集団規定の必要性や効果について説明することができる。 ・都市計画で指定される区域、地域地区の目的や都市環境とのかかわりや効果などについて思考を深め、建築の計画や設計の学習において的確に表現できる。 ・道路の定義や種別とともに、災害防止や避難の観点から道路と敷地とのかかわりなどについて思考し、建築の計画や設計の学習において的確に表現できる。 ・建蔽率や容積率による市街地の密度の規制と都市環境とのかかわりや効果などについて思考し、事例に応じて規定の適用を判断することができる。 ・各種高さ制限などの形態の規制と都市環境とのかかわりや効果などについて思考し、事例に応じて規定の適用を判断することができる。 ・地区計画・建築協定・総合設計・特定街区などの制度と都市環境とのかかわりや効果などについて説明することができる。	・都市計画法に基づく建築基準法による集団規定の目的や背景などに関心をもち、意欲的に学習している。 ・都市計画で指定される区域や地域地区について、土地利用の観点から目的や背景に関心をもち、建築の計画や設計などの学習に役立てようとしている。 ・建築基準法上の道路に基づくさまざまな建築制限に関心をもち、建築の計画や設計などの学習に役立てようとしている。 ・都市環境と建築物の密度の規制とのかかわりや、密度規定の目的・背景などについて関心をもち、建築の計画や設計などの学習に役立てようとしている。 ・都市環境と建築物の形態の規制とのかかわりや、その目的・背景などについて関心をもち、建築の計画や設計などの学習に役立てようとしている。 ・地域に応じた良好なまちづくりのためのさまざまな制度について、その目的・背景・効果などに関心をもち、意欲的に学習している。
第4章 手続きなどの規定 第1節 手続きのあらまし 第2節 手続きに関する機関 第3節 着工前の手続き 第4節 工事中的手続き 第5節	・建築生産の段階に応じて定められる建築基準法上の手続きの流れを理解している。 ・法手続きにかかわる諸機関のあらましと、建築主事の役割などを理解している。	・建築基準法に基づく主要な手続きのプロセスと建築生産とのかかわりについて思考を深め、建築の計画や設計の学習において的確に表現できる。 ・法手続きに関する諸機関と役割などについて、思考を深め、建築の計画や設計の学習において的確に表現でき	・建築基準法に基づく手続きのしくみについて関心をもち、建築の計画や設計の学習に役立てようとしている。 ・法手続きに関係する諸機関について関心をもち、手続き規定の学習に役立てようとしている。 ・建築確認について関心を

使用中の手続き 第6節 違反建築物などに対する措置 第7節 その他の制度	・ 建築の着工前における手続きや確認申請を必要とする建築物の判別方法を理解している。 ・ 建築物の工事中や工事完了時および使用中における各種手続きや違反建築物に対する措置のあらましなどを理解している。	る。 ・ 建築の着工前に必要となる建築確認について思考を深め、建築の計画や設計の学習において的確に表現できる。 ・ 建築物の工事中や工事完了時および使用中の各種手続きや違反建築物に対する措置の必要性について思考を深め、建築の計画や設計の学習において的確に表現できる。	もち、主体的に学習に取り組んでいる。 ・ 建築物の工事中・工事完了時・使用中における各種手続きや違反建築物に対する措置について関心をもち、主体的に学習に取り組んでいる。
第5章 各種の関係法規 第1節 設計と工事の段階にかかわる法規 第2節 良好な建築を促進する法規 第3節 その他の法規	・ 建築士法や建設業法など、設計や施工の業務とかかわりの深い関連法規の内容を理解している。 ・ バリアフリー法・耐震改修促進法・建築物省エネ法・住宅品質確保法などの概要、各種法規と建築物の安全性・快適性・省エネ性などのかかわりを理解している。	・ 建築士法や建設業法などと建築の企画や設計・工事との実際的なかかわりについて思考し、事例に対して適切な判断能力を身につけ、建築計画や設計・施工の学習において的確に表現できる。 ・ バリアフリー法・耐震改修促進法・建築物省エネ法・住宅品質確保法と建築物の安全性・快適性・省エネ性とかかわりについて思考し、実際的な事例に対して適切な判断能力を身につけ、建築の計画や設計・施工の学習において的確に表現できる。	・ 建築士法や建設業法などについて関心をもち、建築計画や設計・施工の学習に役立てようとしている。 ・ 建築物の安全性・快適性・省エネ性を促進するバリアフリー法・耐震改修促進法・建築物省エネ法・住宅品質確保などの法規の目的や効果について関心をもち、建築の計画や設計・施工の学習に役立てようとしている。
・ 1 年間の評価は、1 学期・2 学期・3 学期の年間を通じて、3 観点をバランスよく判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価の観点			考査範囲
				知・技	思・判・主		
1 学期	4	「建築法規」を学ぶにあたって 第1章 建築法規のあらまし 1 建築法規の起源 2 建築法規の意義 3 法規の体系と建築基準法の構成 4 建築基準法の基本用語	・建築物の生産・使用・除却の各過程の概要と建築法規の役割を理解させる。また、建築にかかわる専門家としての倫理を正しく理解させる。 ・建築法規の歴史的変遷にふれて、その背景と、都市社会のルールとしての建築法規の重要性を理解させる。 ・個人の自由な意志に基づく建築行為の尊重と、市民社会の最低限のルールとしての建築基準法の必要性や意義を、建築の専門家としての立場から理解させる。 ・法規の成り立ちと建築基準法の体系を理解させるとともに、建築基準法の構成と条文の構成を理解させ、法規の実践的学習につなげる。 ・法令や建築基準法の基本的な用語とともに、法規上定められる面積・高さ・階数などの算定の基準と方法を具体的な事例を通して理解させる。		○	○	中間考査
	5	第2章 個々の建築物にかかわる規定 1 一般構造・建築設備についての規定	・室内環境と衛生についての規定、日常安全についての規定を、具体的な事例を取り上げ、相互の関連とともに理解させる。	○	○	○	
	6	2 構造強度についての規定	・構造設計と構造規定のあらまし、木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の各構造ごとの構造規定、構造計算の方法を理解させる。	○	○	○	
	7	3 防火と避難についての規定	・防火と避難に関する建築基準法と消防法の規定のあらましや相互の関連と、建築の計画や設計に必要な基本的な事柄について、具体的な事例を取り上げて理解させる。	○	○	○	
	8	第3章 良好な都市環境をつくるための規定 1 都市計画法と建築基準法 2 土地利用	・都市計画法の目的、建築基準法の集団規定の意義や目的と効果について、具体的な事例を取り上げ、相互の関連とともに理解させる。 ・都市計画で指定される区域、地域地区の概要と用途規制の目的、防火、準防火地域内の構造制限などについて、具体的な事例を取り上げて理解させる。		○		中間考査
	9			○	○	○	
	10	3 道路と敷地	・建築基準法上の道路と敷地に関する規定を、具体的な事例を取り上げて理解させる。	○	○	○	期末考査
2 学期							

1 1	4	密度に関する規定	・密度規定の目的とあらましとともに、容積率、建ぺい率の算定方法を、具体的な事例を取り上げて理解させる。	○	○	○
	5	形態に関する規定	・形態規定の目的とあらまし、絶対高さ制限・各種斜線制限・日影規制に関する規定を理解させ、事例に応じて規定の適用が判断できる能力を身につけさせる。	○	○	○
1 2	6	良好なまちづくり	・地区計画・建築協定・総合設計・特定街区・総合的設計・建築協定・景観法などの制度のあらましと目的や効果を理解させる。	○	○	○
1	第4章 手続きなどの規定					
	1	手続きのあらまし	・建築物の設計から完成・使用を経て、除却に至る手続きの一連のプロセスを理解させる。	○		
	2	手続きに関する機関	・建築基準法に定められる各種手続きにかかわる機関について、相互の関連とともに理解させる。	○		
	3	着工前の手続き	・建築物の設計と工事監理の業務および工事着工前に行う建築確認の概要を理解させるとともに、確認申請が必要となる建築物について、具体的な事例を取り上げて理解させる。	○	○	
	2	4 工事中の手続き	・建築物の施工開始時や工事中および工事完了時に必要となる主要な手続きの概要を理解させる。	○	○	
		5 使用中の手続き	・建築物の使用にともなう維持保全や定期報告の必要性を、具体的な事例を取り上げて理解させる。	○		
		6 違反建築物などに対する措置	・違反建築物に対する違反の是正命令、是正措置のあらまし、その必要性などについて、具体的な事例を取り上げて理解させる。	○		
		7 その他の制度	・建築基準法の適用除外、制限の緩和、処分に対する不服申立てなどの諸制度について、具体的な事例を取り上げて理解させる。	○	○	
	第5章 各種の関係法規					
	1	設計と工事の段階にかかわる法規	・設計と工事にかかわる公的な資格、建築士法、建設業法、労働安全衛生法、環境の保護にかかわる法規などの目的と概要について理解させる。	○	○	○
	2	良好な建築を促進する法規	・バリアフリー法、耐震改修促進法、建築物省エネ法、住宅品質確保法などの良好な建築を促進する法律の目的と概要について理解させる。	○	○	
	3	その他の法規	・建築にかかわりのあるその他の法規についてあらましを理解する。	○		

期末
考
査

インテリア計画（インテリア類型）

教 科	工業	単位数	2	学科・学年	建築インテリア工学科 3年
使用教科書	インテリア計画（実教出版）				
副教材等	担当教員が配付するプリント				

「インテリア計画」の到達目標は

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の構造の提案に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) インテリア計画について住生活や工業生産を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) インテリア計画に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) インテリアを計画する力の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	建築と環境、住宅の計画、各種建築物の計画、都市と地域の計画などに関する基本的な知識と技術を習得し、建築物やインテリアを合理的かつ創造的に計画する力を身につけている。	建築物やインテリアの計画に関する課題を見だし、各分野の知識・技術を活用して、科学的な根拠に基づき思考・判断し、その解決策を的確に表現する能力を身につけている。	インテリア計画の各分野に興味・関心をもち、環境に配慮した安全で快適な建築物を計画する力の向上を目指して、主体的に学習に取り組んでいる。
評価の方法	- 定期考査、小テスト（知識・理解を問う） - 確認プリントやワークシート、授業ノートの記述内容 - 成果物（授業ノート、授業プリント、レポート内容）	- 定期考査、小テスト（思考・判断・表現を問う） - 思考・判断した過程や結果を適切に説明（表現・発言）できる。 - 確認プリントやワークシート、授業ノートの記述内容 - 成果物（授業ノート、授業プリント、レポート内容）	- 出席状況 - 授業準備（必要な持ち物、事前課題提出等） - 授業態度（身だしなみ、言葉遣い、挙手、取組状況等） - 成果物（レポート提出、課題提出、授業ノート、授業プリント等）

2. 評価の規準（及び年間の評定）

単元	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5章 寸法計画と規模計画	規模計画と寸法計画について空間の目的と規模、モジュラーコーディネーション及びグリッドプランニングを踏まえて理解するとともに、関連する技術を検証し改善している。	生活の変化や豊かで快適なインテリア空間の計画に着目して、規模計画と寸法計画に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証している。	規模計画と寸法計画について自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
6章 インテリアエレメント	インテリアエレメントについて分類及び計画上の取扱いを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	生活の変化や技術の進展に対応した豊かで快適なインテリア空間の計画に着目して、インテリアエレメントに関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証している。	インテリアエレメントについて自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
7章 各種空間の計画	各種空間の計画について空間構成と機能を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	住宅、事務所、公共施設などの機能に着目して、各種空間の計画に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証している。	各種空間の計画について自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、知識・技能（技術）を重視し総合的に判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価の観点			考查範囲
				知・技	思・判・表	主	
1学期	4	第5章 寸法計画と規模 第1節 空間の目的と規模	空間規模、施設規模及び規模の決定方法を考え、理解する。	○	○	○	1学期中間考査
	5	第2節 寸法計画	人体寸法と設計、知覚と空間を理解する。	○		○	
	6	第3節 モデュラーコーディネーション	構成材と互換性、モジュール、組立基準面と構成材基準面、構成材の寸法とあきを理解する。	○		○	1学期
		第4節 グリッドプランニング	モジュールを基準寸法としたグリッドプランニングについて理解し、活用する。	○	○	○	2学期中間考査
		第5節 配置と動線	住空間の防災や安全対策を取り上げ、空間の機能を十分に発揮させる各部分の位置関係とそれにともなう人の動きを考え理解する。	○	○	○	
2学期	8	第6章 インテリアエレメント 第1節 インテリアエレメントの種類	家具、建具、照明器具、窓回り部品、テキスタイル製品、壁装材料、工芸品などを取り上げ、インテリアエレメントの種類及び分類を理解する。	○		○	2学期中間考査
	9	第2節 インテリアエレメントの計画	家具、カーテン、カーペット、照明器具などを取り上げ、家具の寸法や機能を理解する。	○		○	
	10	第7章 各種空間の計画 第1節 住宅	住宅の設計例などを取り上げ、住宅の種類及び計画、各室の機能を理解し、よりよい住宅を考える。	○	○	○	2学期末考査
		11					
3学期	12	第2節 事務所	事務所の設計例などを取り上げ、空間の構成、計画を理解する。	○		○	学年末考査
	1	第3節 商業施設	さまざまな業種の商業施設を取り上げ、計画及び設計について考え理解する。	○	○	○	
	2	第4節 その他の施設	教育・文化施設、ホテル、車両、航空機などを取り上げ、計画及び設計について考え理解する。	○	○	○	

インテリア装備（インテリア類型）

教 科	工業	単位数	3	学科・学年	建築インテリア工学科 3年
使用教科書	インテリア装備（東京電機大学）				
副教材等	担当教員が配付するプリント				

「インテリア装備」の到達目標は

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の構造の提案に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) インテリア装備について室内空間を構成する各部位を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) インテリア装備に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) インテリア装備を建築物へ施工する力の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	豊かで快適なインテリア空間をつくるために、インテリア装備について室内空間を構成する各部位を踏まえて住生活や工業生産と関連付けて理解しているとともに、インテリア空間づくりにおける様々な状況に対応できる技術を身に付けている。	・ インテリアを構成する各部位やエレメントの材料、構造、施工に着目して、インテリア装備に関する課題を見だし、単に生産性や効率だけを優先するのではなく、インテリア装備が人々の生活や社会に与える影響に対して責任をもち、科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	・ インテリア装備の建築物へ施工する力の向上を目指し、生活の変化にともなう建築物やインテリアの立体的な構造、多様なインテリア材料と施工方法について自ら学ぶ態度や、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価の方法	・ 定期考査、小テスト（知識・理解を問う） ・ 確認プリントやワークシート、授業ノートの記述内容 ・ 成果物（授業ノート、授業プリント、レポート内容）	・ 定期考査、小テスト（思考・判断・表現を問う） ・ 思考・判断した過程や結果を適切に説明（表現・発言）できる。 ・ 確認プリントやワークシート、授業ノートの記述内容 ・ 成果物（授業ノート、授業プリント、レポート内容）	・ 出席状況 ・ 授業準備（必要な持ち物、事前課題提出等） ・ 授業態度（身だしなみ、言葉遣い、挙手、取組状況等） ・ 成果物（レポート提出、課題提出、授業ノート、授業プリント等）

2. 評価の規準（及び年間の評定）

単元	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2章 インテリアの施工法	・ インテリアの施工について床、壁、天井あの下地と仕上げ、開口部、階段、造作及び施工管理などを踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	・ インテリア装備を計画し施工管理に着目して、インテリアの施工に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する能力を身に付けている。	・ インテリアの施工について自ら学び、インテリア装備を活用した豊かで快適なインテリアの計画に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
4章 維持保全とリフォーム	・ インテリアの維持保全とリフォームについて建築物の長寿命化や省資源を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	・ インテリア装備を計画し施工に着目して、インテリアの維持保全とリフォームに関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する能力を身に付けている。	・ インテリアの維持保全とリフォームについて自ら学び、インテリア装備を活用した豊かで快適なインテリア空間の計画に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
5章 構造の力学	・ 建築構造と力学について建築構造の概要、構造物に働く力及び部材の断面などを踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	・ インテリア装備を計画し施工することに着目して、建築構造と力学に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する能力を身に付けている。	・ 建築構造と力学について自ら学び、インテリア装備を活用した豊かで快適なインテリアの計画に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
6章 建築設備	・ 建築設備について給排水や衛生に関わる設備、空気調和設備及び電気・ガス・通信に関わる設備を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	・ インテリア装備を計画し施工することに着目して、建築設備に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する能力を身に付けている。	・ 建築設備について自ら学び、インテリア装備を活用した豊かで快適なインテリア空間の計画に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
7章 関係法規	・ インテリア装備に関する法規について法規の目的と概要を踏まえて理解している。	・ インテリア装備を計画し、施工をする上での建築基準法、消防法などのインテリア装備の施工と管理及び安全性などに関する法規に着目して、インテリア装備に関する法規に即した課題を見いだすとともに解決策を考え、法的な根拠に基づき結果を検証し改善する能力を身に付けている。	・ インテリア装備に関する法規について自ら学び、インテリア装備を活用した豊かで快適なインテリア空間の計画に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
1 年間の評定は、1 学期・2 学期・3 学期の年間を通じて、知識・技能（技術）を重視し総合的に判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価の観点			考査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1学期	4 5	第2章 インテリアの 施工法 (第3章 インテリア材 料を含む) 1 施工の概要 2 床の下地と仕上げ 3 壁の下地と仕上げ	- 床・壁・天井の下地と各種の仕上げから、躯体、下地、仕上げと相互に関連付けて理解している。 - 室内の床や壁及び開口部などに取り付ける幅木、腰羽目、なげし、かもし、敷居などの取付工事や床の間について理解している。	○ ○	○ ○	○	1 学期中間考査
	6 7	5 天井の下地と 仕上げ 4 造作		○	○	○	1 学期期末考査
2学期	8 9	6 開口部 7 階段 8 施工管理 第4章 維持保全と リフォーム (第1章 建築の構造を 含む) 1 維持保全 2 維持保全の方法 3 住宅のリフォーム	- 木構造、鋼構造、鉄筋コンクリート構造における出入口や窓について理解している。 - 木造階段、鋼製階段、鉄筋コンクリート造階段について理解している。 - インテリアの施工計画、工程管理、品質管理、安全管理などを取り上げ、工事の管理と組織について理解している。 - インテリアの維持保全の方法やリフォームの方法などについて理解している。	○ ○	○ ○	○ ○	2 学期中間考査
	10 11	第5章 構造の力学		○ ○	○ ○	○ ○	2 学期期末考査
3学期	12 1 2	第6章 建築設備 1 建築設備の概要 2 各種の設備と 設備機器	- 生活に必要な給水・排水の方式や関係する設備機器の構成について理解している。 - 空気調和の方式や関係する設備機器の構成について理解している。 - 電気、ガス、通信、防災、ホームオートメーション設備について理解している。 - 建築基準法、消防法などのインテリア装備の施工と管理及び安全性などに関する法規の目的と概要について理解している。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	学 年 末 考 査
		第7章 関係法規		○			

匠（インテリア類型／学校設定科目）

教 科	工業（建築インテリア）	単位数	2	学科・学年	建築インテリア工学科 3年（選択）
使用教科書	新・飛騨の匠ものがたりⅣ（飛騨木工連合会）				
副教材等	担当教員が配付するプリント・現物見本・写真資料など				

「匠」の到達目標は

- (1)地元飛騨の歴史や現存する史跡名所、地場産業企業を調査・研究、見学をするなど体験的に学習し、視野を広くして「飛騨の匠」に関するテーマを設定し、調査・研究をし、飛騨の匠について理解を深める。
- (2)飛騨の文化や伝統的技術について、より深い知識を系統的に学習し幅広い考え方やものづくりの対応力を養い、将来の「飛騨の匠」を目指す。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	飛騨の匠の伝説や飛騨の歴史を知り、飛騨の伝統文化や歴史的建造物、伝統工芸技術、地場産業の優れた木製品、飛騨の建築やインテリア関係の優秀な人材や技術、設計デザインから制作に関わる幅広い分野まで、学び、将来の「飛騨の匠」を目指せる知識や技術を理解している。	飛騨の匠の伝説や飛騨の歴史を知り、飛騨の伝統文化や歴史的建造物、伝統工芸技術、地場産業の優れた木製品、飛騨の建築やインテリア関係の優秀な人材や技術、設計デザインのから制作に関わる幅広い分野まで、学び、将来の「飛騨の匠」を目指すことができる思考・判断・その解決策を的確に表現する能力を身につけている。	飛騨の匠の伝説や飛騨の歴史を知り、飛騨の伝統文化や歴史的建造物、伝統工芸技術、地場産業の優れた木製品、飛騨の建築やインテリア関係の優秀な人材や技術、設計デザインのから制作に関わる幅広い分野まで、学び、将来の「飛騨の匠」を目指すことができる各分野に興味・関心を持ち、主体的に取り組んでいる。
評価の方法	- 単元テスト（知識・理解を問う） - 確認プリントやワークシート、授業ノートの記述内容 - 成果物（授業ノート、授業プリント、レポート内容）	- 単元テスト（思考・判断・表現を問う） - 思考・判断した過程や結果を適切に説明（表現・発言）できる。 - 確認プリントやワークシート、授業ノートの記述内容 - 成果物（授業ノート、授業プリント、レポート内容）	- 出席状況 - 授業準備（必要な持ち物、事前課題提出等） - 授業態度（身だしなみ、言葉遣い、挙手、取組状況等） - 成果物（レポート提出、課題提出、授業ノート、授業プリント等）

2. 評価の規準（及び年間の評定）

単元	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
飛騨びとの祖先と古代史	飛騨の古代史から考えられる飛騨国誕生と中央政権との関係を考え、現存した古墳や廃寺史跡から「飛騨の匠の発祥の地」飛騨市河合町を調査する。 法隆寺に現存する釈迦三尊像の制作者と飛騨の匠の関りなどを踏まえて、伝説の飛騨の匠を理解するとともに、意義や関連する史実、知識を身に着けることが意欲的できる。	飛騨の古代史から考える飛騨国誕生に重要な人物、古事記に記載されている、両面宿儺伝説と、中央政権との関係を調査し、飛騨に現存する古墳や史跡から「飛騨の古代史からみる国造り」とはどうだったか考察。 古代の中央政権と日本国、大陸との関係から見る飛騨の匠の祖先はどこからきたのか考え、伝説の飛騨の匠を理解するとともに、当時の飛騨の匠の存在意義や関連する史実、知識から考えてまとめる方法を身に着けることができる。	飛騨の古代史から考える飛騨国誕生に重要な伝説、人物、史跡、古事記や様々な資料から「飛騨の古代史からみる国造り」と「伝説の飛騨の匠」はどうだったか。 日本国と大陸との関係から見る建築構造物の違いや文化交流、山奥の飛騨の地と中央政権との国造りの関係から見る匠の祖先を考え、伝説の飛騨の匠を理解するとともに、当時の飛騨の匠の存在など主体的に学習に取り組んでいる。
飛騨びとの文化と伝統的産業	飛騨に伝わる伝説などや現存する史跡、古墳から考えられる古代飛騨の国造りと建築物の技術関係は、どうだったか、資料を収集して歴史を理解し、飛騨びとの当時の高度な文化を検証。 現在も関係する伝統的産業との関係を踏まえて、飛騨の産業を理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。	飛騨に伝わる伝説などや現存する史跡、古墳から考えられる古代飛騨の国造りと建築物の技術関係は、どうだったか、資料を収集して歴史を理解し、飛騨びとの当時の高度な文化を検証。 現在も関係する伝統的産業との関係を踏まえて飛騨の産業を理解するとともに、当時の飛騨の匠の存在意義や関連する知識や史実から考えられることをまとめる方法を理解することができる。	飛騨に伝わる伝説などや現存する史跡、古墳から考えられる古代飛騨の国造りと建築物の技術関係は、どうだったか、資料を収集して歴史を理解し、飛騨びとの当時の高度な文化を検証。 現在も関係する伝統的産業との関係を踏まえて飛騨の産業を理解するとともに、当時の飛騨の匠の存在意義や関連する知識や史実から考えられることを当時の飛騨の匠の存在など主体的に学習に取り組むことができる。
飛騨の近代化と産業 飛騨デザイン	古代、飛騨は中央政権から関係があったのではと伝わっている。都造りでは万葉集でも遠く故郷を離れて都造りに駆り出されて一心不乱に木造建築の仕事をやっている飛騨人の姿が歌われている。古代の日本の歴史から、地理的に奥深い山の中の飛騨は中央政権、現在の都会にあたる地域との結びつきが強くあり、現在に至ったと考えられる。 飛騨の近代化はどうだったのか検証して現在の地場産業を考えてみる。知識と技術から飛騨デザインの意義と役割を理解している。	古代、飛騨は中央政権から関係があったのではと伝わっている。都造りでは万葉集でも遠く故郷を離れて都造りに駆り出されて一心不乱に木造建築の仕事をやっている飛騨人の姿が歌われている。古代の日本の歴史から、地理的に奥深い山の中の飛騨は中央政権、現在の都会にあたる地域との結びつきが強くあり、現在に至ったと考えられる。 飛騨の近代化はどうだったのか検証して現在の地場産業を考えてみる。知識と技術から飛騨デザインの関連する知識から考えられることをまとめる方法を理解することができる。	古代、飛騨は中央政権から関係があったのではと伝わっている。都造りでは万葉集でも遠く故郷を離れて都造りに駆り出されて一心不乱に木造建築の仕事をやっている飛騨人の姿が歌われている。古代の日本の歴史から、地理的に奥深い山の中の飛騨は中央政権、現在の都会にあたる地域との結びつきが強くあり、現在に至ったと考えられる。 飛騨の近代化はどうだったのか検証して現在の地場産業を考え、飛騨デザインの意義と役割なども考え、主体的に学習に取り組むことができる。
1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、知識・技能（技術）を重視し総合的に判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価の観点		
				知・技	思・判・表	主
1 学期	4	1 授業の概要 ・ 授業の概要説明 ・ 情報交換（地元誌や地元の新聞等	・ 「飛騨の匠」に関わる歴史を調査する。 特に古墳時代から飛鳥時代の飛騨と大和を調査して大陸の百済・新羅・高句麗と日本との関係を検証。 ・ 万葉集の歌にある飛騨の匠とは何か調査する。	○	○	○
	5	2 飛騨の匠の歴史 ・ 調査研究（調べ学習/通年） ・ 見学会（春の高山祭、屋台蔵、匠の碑）	・ 「飛騨の匠」に関わる地元の伝説などを調べる。 ・ 古事記や日本書記にある飛騨に関する文献を調査。 日本書記に残る「両面宿禰」伝説 飛騨の古墳から検証する両面宿禰伝説と飛騨の匠伝説との関係を調べて当時の大和政権との関係を検証する。 ・ 「飛騨の匠」に関したテーマを設定し、飛騨市古川町や河合町、高山市を調査・研究する。	○	○	○
	6 7	3 飛騨の伝統技術と地場産業 ・ 飛騨の伝統技術（建築とインテリア） ・ 地場産業の実際（在来工法木造建築と木工家具）	・ 実際に現場（史跡名所や企業・研究施設等）を訪れ、実物を見学し、曲木なども含めて体験的に学習する。 ・ 飛騨地域の歴史的神社仏閣の調査を進める。 ・ 飛騨に現存していた明治建築と歴史的建造物を考察する。	○	○	○
2 学期	8 9	4 飛騨の匠 ・ 見学会（陣屋、飛騨の里、秋の高山祭等） ・ 調査研究（調べ学習/通年）	・ 飛騨の戦国時代（飛騨の関ヶ原）から幕末までの歴史を調べ、飛騨の文化や建築物・工芸品などの変化や伝統技術などを調べる。 ・ 飛騨の神社仏閣・高山屋台・古川屋台などの建築の工法と現代の名工を調査する。	○	○	○
	10	5 飛騨の伝統工芸 ・ 実技講習（伝統工芸/木彫など）	・ 伝統技術を学ぶため、講師を招き技術指導を受ける。地元の伝統技能・技術を習得する。			
	11	6 飛騨の文化 ・ 飛騨人の歴史的な生活、祭りと文化他	・ 地元・飛騨人（ひだびと）の文化、祭り、食生活、産業などの伝統や変化、現在も受け継がれているものなどについて調べ、より深い知識を学習する。	○	○	○
3 学期	12	7 自己課題のまとめ ・ 調査研究（課題のまとめと報告）	・ 当時の本校・工業高校の前進、第二次大戦中の飛騨で研究され、試作された木製戦闘機キ 106 製造技術が現在にどう生かされて、地場産業に受け継がれているのかなどを調査・研究する。	○	○	○
	1	8 作品展示発表 ・ 展示（授業や卒業作品展で展示）	・ 「飛騨の匠」に関した調査・研究を各班でテーマ毎にまとめてまとめたものを、仲間と情報交換したり発表したりする。	○	○	○
	2					